

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2006～2009

課題番号：18520534

研究課題名（和文）南京国民政府成立前後の党国体制の浸透と地域社会の変容

研究課題名（英文）Transformation of infiltration and regional society of Chinese National Party power before and after Nanjing National Government

研究代表者

田中 比呂志（TANAKA HIROSHI）

東京学芸大学・教育学部・准教授

研究者番号：90269572

研究分野：史学

科研費の分科・細目：東洋史

キーワード：地域エリート、中国国民党、南京国民政府、江蘇省、地域社会

1. 研究計画の概要

本研究の目的は、1920年代から1930年代中葉（日中戦争前）に到る間の中国江南社会を主要な対象とし、南京国民政府の成立前後において国家建設が進められる中で、国家が社会に対して如何にしてその支配を浸透させようとしたのか、そして他方、地域社会はどのような国家支配の浸透に対してどのように対応したのか、すなわち、国家と地域社会とが如何なる秩序を形成したのかを、実証的に検討しようとするものである。そして、上述のような実証研究を通じて、さらに、地域社会がどのように党国体制に包摂されていたのか、あるいは党国体制に包摂されつつもどのように自律性を確保していったのかを検討し、地域社会論的視角と党国体制論的視角を統一的に理解するための視座を獲得せんとすることにある。

2. 研究の進捗状況

(1) まず、史料収集の状況に関して。過去3年間の研究機関における史料収集状況は、1910年代末から1930年代にかけての新聞史料（地方新聞を含む）、雑誌、調査報告書、国民党刊行物、国民政府刊行物、地方志あるいは当該年代に刊行された単行本など、当初に必要なと思われる史料は順調に収集することができたように思われる。

(2) 収集した史料の閲読・分析について。マイクロフィルム形式の史料やデジタルカメラを使用して入手した史料の分析は、他の紙媒体の史料に比べて手間がかかるため、若干の史料の閲読・分析が未消化である。しかし、全体としては概ね予定通りの進行状況である。

(3) また、図書館などにおいて必要としていた史料の検索を実施した際に新たに見つけ出した史料も閲読・収集することができた。(4) さらに、研究開始以後に出版された（流通の関係もある）研究書を入手して、検討することができた。

これらの結果、1910年代後半から1920年代中葉にかけて、地域エリートの交代がすすみ、これらは単なる世代交代ではなく、文化的価値意識の異なった人々が登場するようになり、中国国民党の地方組織に参加していたこと、また、国民政府成立後には官僚組織と政党組織の二重の支配系統が作られていったこと、その官僚組織はより高度な学歴主義的性質を帯びていくようになったことなどが明らかになった。

3. 現在までの達成度

② おおむね順調に進展している。

（理由）「研究の進捗状況」に記したように、予定した研究スケジュールをほぼ消化していること、そしてこれまでに一定の研究成果を出していることによりこのように判断した。

4. 今後の研究の推進方策

最終年度は、これまでに未消化の部分がある場合は、それを消化しつつ、まとめるという計画である。従って、そのような方針に沿って研究を遂行していく。

5. 代表的な研究成果

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計2件)

- ① 田中比呂志
清末民初における地域エリートと社会管理の進展－江蘇省宝山区地域社会を例として『東京学芸大学紀要(人文社会学系Ⅱ)』58集、55～67頁、2007、査読無し
- ② 田中比呂志
北京政府期の江蘇省における地方自治運動と地域エリート－蘇社に関する覚書『東京学芸大学紀要(人文社会学系Ⅱ)』60集、85～97頁、2009、査読無し

〔学会発表〕(計2件)

- ① 田中比呂志
近代中国の国民国家構想－清末民初の地域エリート等の構想を中心として、大学共同利用機関法人人間文化研究機構主催シンポジウム「アジアにおける国民国家構想」、2007.12.8、早稲田大学
- ② 田中比呂志
近代中国における「中央」と「地方」、中国経済学会第7回大会報告、2008.6.22
一橋大学

〔図書〕(計1件)

- ① 田中比呂志
近代中国の国民国家構想とその展開、久留島浩・趙景達編『アジアの国民国家構想－近代への投企と葛藤』、青木書店、117～147頁、2008、査読無し